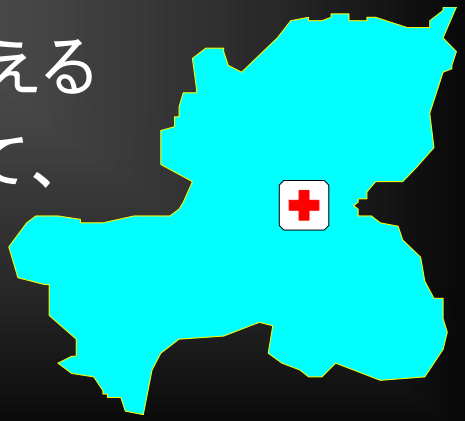
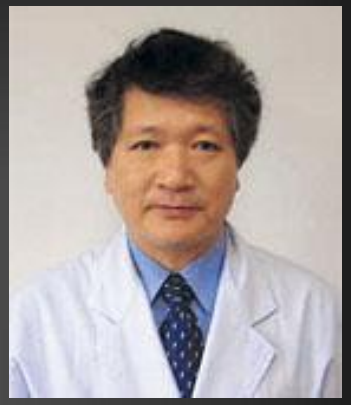
岐阜県立下呂温泉病院へようこそ

南飛騨・東濃北部等の約1500km²の診療圏を支える
地域中核病院です。 地域医療のモデル病院として、
TV番組などでも紹介されました。
現在4名の研修医が活躍しています。



研修の理念

「医療は地域とともにあり」をモットーに、地域に貢献できる医師の育成を目指します。 病む人の心が分かる医師、そして高い医療レベルを習得し地域をリードする医師の育成をめざした研修を行います。



山森積雄理事長

研修の特徴

当院の特徴は地域中核病院・へき地支援病院であることにより、地域との結びつきが強い病院です。また病床数206床を有する急性期病院でもあり、特殊な治療以外は全て行っています。研修期間において、地域医療の精神（医師としてのあり方）とプライマリーケアを中心とした医療技術を同時に学ぶことができます。

当 院 の 概 要

所在地：岐阜県下呂市森2211

病床数：206床、（急性期病棟76床、回復期病棟26床
地域包括ケア病棟104床）

診療科：内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科
脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科
皮膚科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科
腎臓内科、歯科口腔外科、病理診断科

常勤医師数：26名（うち歯科2名、研修医4名含む）

令和2年度1日当たり平均外来患者数：約308名

令和2年度手術件数：567件

令和2年度救急車搬送件数：923件

岐阜県立下呂温泉病院の診療圏

当院の診療圏　（面積1125km^2、人口約4.5万人）

下呂市＋中津川市加子母・付知町＋加茂郡東白川村＋加茂郡白川町の一部＋郡上市和良町・明宝町の一部　（面積約1500km^2、人口約6万人）

診療圏内の医療機関

岐阜県立下呂温泉病院（206床　このうち急性期76床）

圏内唯一の2次救急医療機関

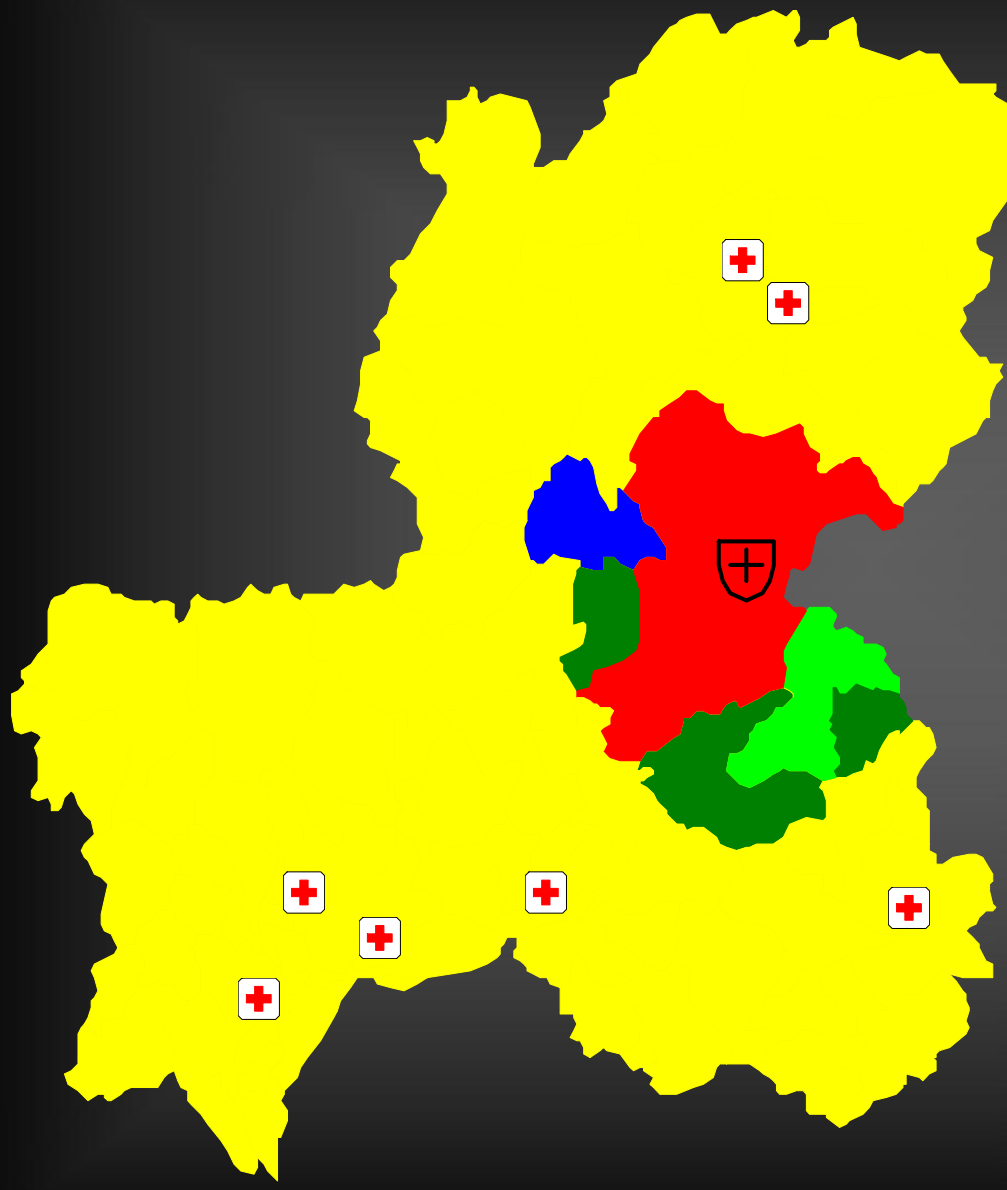
下呂市立金山病院（99床　このうち急性期50床）

医師9名　　内科・外科・小児科・歯科

無床診療所（公立診療所3＋個人医院21）

24診療所（内科系が約3/4）

岐阜県立下呂温泉病院の診療圏



下呂市

全救急搬送

岐阜県の面積の1/10
人口約4万

一部救急搬送

外来受診患者が多い

主な関連病院

関連病院までの距離

高山赤十字病院：　49km
高山久美愛病院　：　53km
岐阜総合医療センター：　94km
岐阜大学附属病院：　103km
岐阜ハートセンター：　102km

岐阜県立下呂温泉病院の医療圏の特徴

1. 医療圏が大変広い。

　岐阜県の総面積の約15%

2. 周囲に高速道路網がなく、近隣の中核病院が遠い。

　（時間的距離が大きい！）

　ここ近年、県内で最も陸の孤島になりつつある地域。

3. 高齢者人口が多い。独居老人・老夫婦世帯も多い。

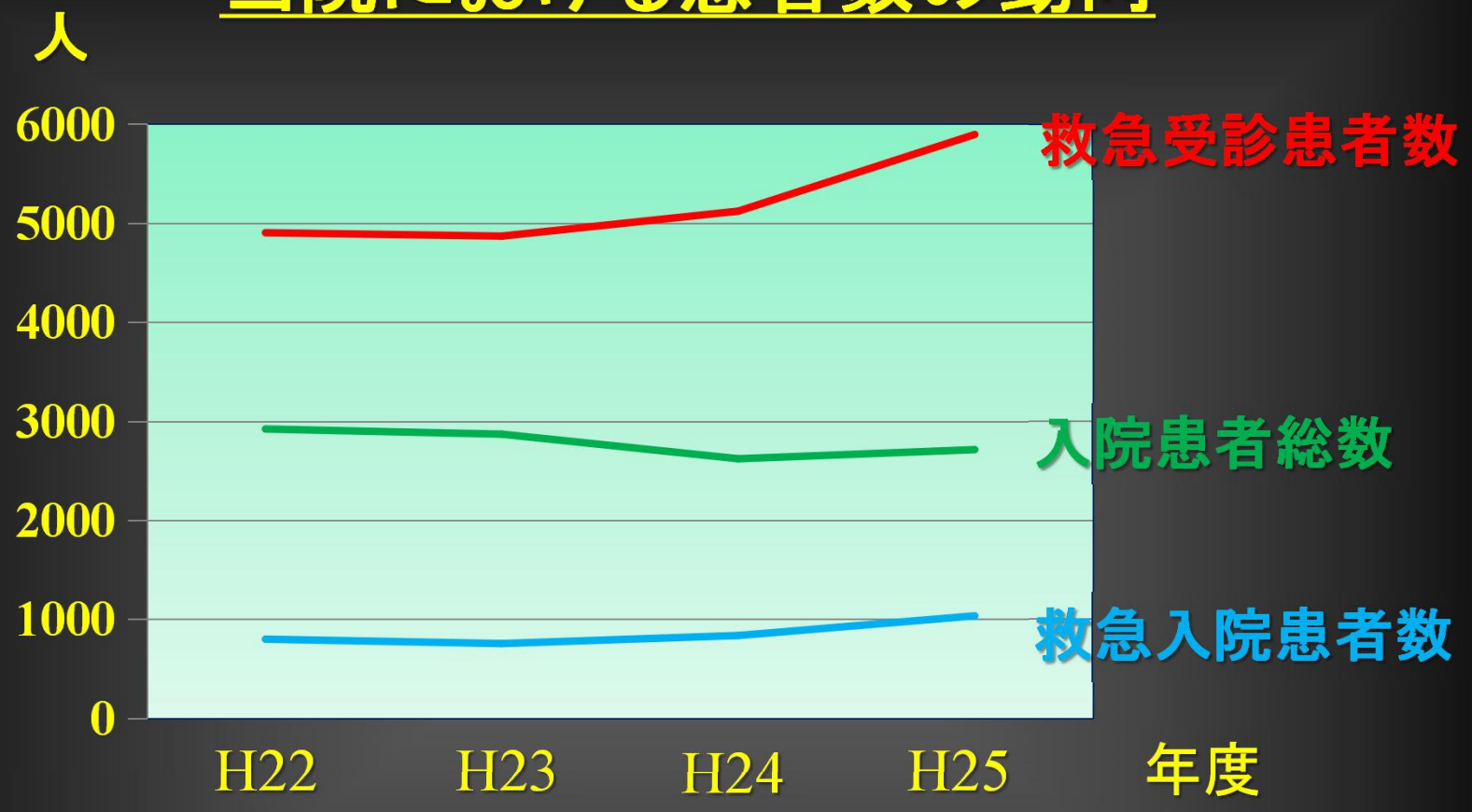
　高齢者人口割合　37．4%　（岐阜県平均28．1%）

　老人世帯割合　27．7%　（岐阜県平均22．0%）

4. 地域住民以外に、観光客の救急需要が高い。

　下呂温泉の年間観光客数　229万人　（2015）

当院における患者数の動向



※救急患者：救急車での搬送患者及び時間外・休日受診患者

しかし救急受診患者数はその後減少傾向

H27　5011名→H28　4933名→H29　4846名→H30　4788名→R1　4246名→R2　3014名

最大の要因は医師会運営の休日診療所の活用が大幅に増加

臨床研修医募集要項

募集定員　2名　　研修期間　2年間

応募方法　公募（マッチングプログラム参加）

選考方法　面接、書類審査

給　　与　706，825円

　　賞与　2回／年

宿　　舎　医師官舎（単身用／世帯用）あり

そ の 他　包括医師賠償責任保険に病院で加入済

当院における臨床研修プログラム（ﾓﾃﾞﾙﾌﾟﾗﾝ）

１年目

内科(24)	救急(12)	外(4)	小(4)	産(4)	精(4)

２年目

地(4)	選択研修(48)

地域医療1ヶ月は必須で、２年目に研修する。
１年目に内科（24週）、救急部門（12週）を研修する。
残りの16週及び2年目に外科、小児科※、産婦人科、麻酔科、精神科※ を研修する。（1診療科4週以上）
その他、将来専門とする科を中心に希望科を選択する。
（脳神経外科・整形外科などを選択するほか、内科などの再履修も可能です。）

当院での初期研修の特徴（1）

病院の規模が初期研修に最適。
（大きすぎない！　家庭的な雰囲気）

☞診療科間の垣根が低く、他科に診療がまたがる場合にも連携が取りやすい。
（科間でお互いに助け合っています。）

↓

１人の患者を受け持っても、複数科の研修が同時に可能です。

☞症例が多すぎて追い込まれてしまい、
結果的に個々の症例が中途半端になる
心配がありません。

↓

個々の症例に対して、じっくり取り組むことができます。

☞診療科が細分化されておらず、極端に
専門化した研修になることはありません。

↓

プライマリー・ケアを身につけるのに最適です。

※基本的な診療手技は2年間で十分習得可能！

当院での初期研修の特徴（2）

・地域中核病院であり、救急・急性期医療からリハビリ、予防医学、在宅療養支援までの、一貫した診療を行っています。

☞診療圏内唯一の総合病院であるため、
救急搬送の受け入れ率は95%以上です。

↓

都市部の病院にしばしば見られるような、
受け入れ患者の選別は起こりえません。
あらゆる状態の患者が無条件で搬送されます。

↓

幅広い救急対応技術を習得できます。

☞患者さんの置かれた環境や地域社会を考慮した全人的医療の姿勢を身につけます。

（地域医療の基本姿勢を初期研修で修得します。）

☞地元医師会や救命救急士、ケアマネジャー等との連携が日常診療の間で密接に行われている。

↓

研修医であっても、種々の勉強会や検討会を通じて、より身近に積極的に関わることが可能です。

（病診連携の重要性・在宅介護支援を理解し、限られたマンパワーの中で、円滑なチーム医療 を実践します。）

定期的な勉強会

内科・外科
・内科外科合同の症例カンファランス
・胸部画像カンファランス（常勤放射線科医＋院外教授も参加）
・CPC（臨床病理カンファランス）

全体
・医師会研修会を毎月１回主催し、輪番制で各科が学術発表
　外部より講師を招聘して、教育研修会を同時開催
・下呂市消防本部との救急搬送症例の事後検討会

その他
・各科内の症例カンファランス
・整形外科・脳神経外科でのリハビリカンファランス　など

岐阜県立下呂温泉病院の地域支援（1）

・専門科医師の定期派遣
　東白川村国保診療所（外科・産婦人科）

・近隣医療機関と連携した訪問リハビリテーション活動

・病診連携予約システムによるかかりつけ医からの初診・検査予約
　紹介率の向上、かかりつけ医との役割分担強化

・認知機能低下予防研究会による地域活動（岐阜県肝いりの事業）
　医師会・薬剤師会・下呂市行政が一体で進める事業
　早期アルツハイマー病の診断（VSRAD)は県内最多の実績

・褥瘡委員会メンバーによる域内医療活動（教育講演、訪問診療）

岐阜県立下呂温泉病院の地域支援（2）

・骨粗鬆症関連骨折予防ネットワーク（G-KNOT)による活動
　脆弱性骨折防止のためのかかりつけ医との医療連携
　当院の骨密度検査実施率は全国トップレベル

・開放型病床（オープンベッド）6床稼働　（入院治療の病診連携）
　当院医師とかかりつけ医による共同主治医制

・近隣医療機関医師の定期臨床研修の受け入れ
　専門技術のスキルアップ

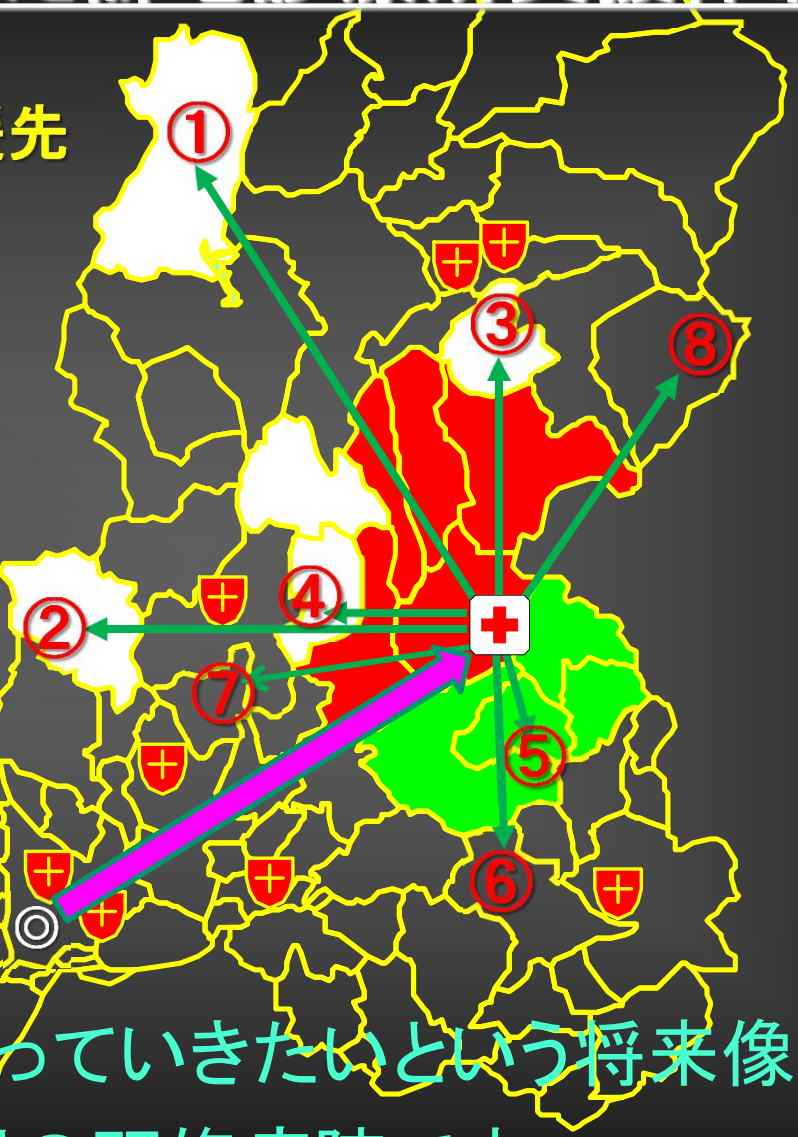
・地域医療部による活動　（H18.4に院内に設立）
（現在は当院常勤の自治医大卒業医師１人と事務官で構成）
　へき地診療所への緊急応援（医師派遣）、当院活動報告など

・岐阜県更生相談所との連携に基づく巡回診療・装具判定

当院を基点とした僻地診療所支援体制

← 代診などの支援先

①白川村
②関市板取地区
③高山市久々野地区
④郡上市和良地区
⑤東白川村
⑥中津川市蛭川地区
⑦関市上之保地区
⑧高山市高根地区
（赤字：定期支援）



今後地域医療をやっていきたいという将来像を持っている方にはぴったりの研修病院です。

岐阜大学医学部初期臨床研修（地域医療）の研修病院としての教育活動 （H19年度より開始）

岐阜大学医学部地域医療医学センター主導による
地域医療中核病院での院外研修（研修医2年目対象）
（地域医療を学ぶ教育医療機関）

↓

地域医療研修カリキュラムに基づいた研修体制
（大学病院や岐阜県総合医療センターでは経験できない地域医療の研修・医師不足地域の実情や苦悩を知る。）

☞さらに研修連携している地域診療所での診療への参加
（第一線でのプライマリケア、訪問診療などの経験）

※この数年、当院は常に研修希望者数が県内地域医療受け入れ病院のBest 3に入っています！

当診療圏の医療連携の特徴（1）

下呂市医師会との緊密な連携

・月１回の定期的な医師会研修会（勉強会＋交流会）

・開放型病床（Open bed)の活用（６床）

・認知症予防のための啓蒙・出張リハビリ活動（当院主導）

・褥瘡予防のための啓蒙・訪問診療活動（当院主導）　など

下呂市薬剤師会との緊密な連携

・薬薬連携の全国モデル地区（お薬手帳の普及など）

下呂市訪問看護ステーションや近隣施設（老人ホーム等）との緊密な連携

・日頃からの情報共有による急変時の速やかな連携対応

・訪問看護・リハビリ連携、地域包括ケア病棟の活用　など

当診療圏の医療連携の特徴（2）

下呂市消防本部との緊密な連携

・定期的な病院・消防合同勉強会の開催（3か月に1回程度）

当院搬送症例に対する初期対応についての検討

高次救命センターへの転送症例の検討

岐阜大学救命救急センター講師らによる講評

・大規模災害発生を想定した救急訓練の実施

岐阜大学高次救命センターとの連携によるドクターヘリ運用

転院搬送依頼が年間40件程度　救急受け入れも数件

岐阜県へき地医療支援機構との連携による地域支援

臨時医師派遣など

我々と一緒に南飛騨の地域医療を盛り上げていきませんか？

岐阜県立下呂温泉病院

〒509－2292　岐阜県下呂市森2211

☎ 0576－23－2222　FAX 0576－23－2223

https://www.gero-hp.jp

担　当 :新医師臨床研修管理委員長

大平敏樹（院長、総合内科部長）

事務局　片岡佑斗（経営企画課）

御嶽山山頂（下呂市最高峰　3067m）より乗鞍・穂高を望む